



四万十町
町内「ふら〜り」散策

奈路

なろ

判官神社はその名の通り源義経を祀っている。源義経とはご承知の通り「牛若丸」である。義経の正式名は「源九郎判官義経」といった。九郎は源義朝の九男であったことから、また、判官は役職名(当時の都の警備や裁判を担当する役職)である。もともと「はんがん」と読むが、義経を語るときには「ほうがん」と読んだ。頼朝の許可なく判官という重要な役職を得たことなどから、悲運とも言える運命をたどった義経は後世の人々の同

情を集め、そこから「判官びいき」という言葉が生まれた。判官神社の鳥居のすぐそばに、窪田藤太郎という人の功績を称える碑が建っている。窪田藤太郎は、明治13年に奈路で生まれ、同38年にアメリカのシアトルに渡った造園家である。クボタ・ガーデニング・カンパニーを起業し「窪田ガーデン」を開いた。彼が何度か帰国した際、故郷・奈路の発展に様々な形で貢献したということでのこの碑が建てられた。

先月号の「黒石」の中心からまっすぐ北進したところが奈路である。奈路には現在、49世帯、97人が暮らしている。平田で緩やかなことを「なろい」という。町内にも複数ある「奈路」という地名は「なろい」からきている。奈路といえば「奈路の大杉」である。これは通称で、正式には「神明杉」という。樹齢500年以上といわれるこの大杉は、幹の太さも圧巻ならば、その枝の伸びようも目を見張るものがある。枝も大木であるがゆえなのであるうか、その多くは地面に「着地」している。一見の価値のある見事な大木である。この大杉は、江戸末期までこの場所にあった神社「神明宮」のご神木である。明治の初め頃、神明宮は、すぐ近くにある奈路の産土神である判官神社に合祀された。判官神社の神輿は一年に一度、この大杉のすぐ脇にある石の台座まで運ばれる。神輿が旅に出るので「お旅所」というそうだ。

さて、奈路地区の東端にこんもりとした小さな山がある。仁井田五人衆が活躍した戦国時代、ここには山城があった。この山城は、土居の江城の主・西原氏の重臣の砦であった。(※九郎判官といえば義経のみを指す名であるが、郷土史研究の中で源九郎判官義経を「義澄(住)」とも読める文献があったという説もあるらしい)

窪田藤太郎という人の功績を称える碑が建っている。窪田藤太郎は、明治13年に奈路で生まれ、同38年にアメリカのシアトルに渡った造園家である。クボタ・ガーデニング・カンパニーを起業し「窪田ガーデン」を開いた。彼が何度か帰国した際、故郷・奈路の発展に様々な形で貢献したということでのこの碑が建てられた。



立派な枝は垂れ下がるように地面に「着地」

町のうごき		人口		前月比		出生		死亡		転入		転出	
男	8,163	-3	男	6	10	9	8						
女	9,057	-15	女	3	18	8	9						
計	17,220	-18	計	9	28	17	17						
世帯数	8,526	-8	(11月中の届出)										
窪川地域	12,183人	大正地域	2,404人	十和地域	2,633人								

四万十川の 水質状況		適正值(mg/l)		12月14日	
リン酸	≤ 1.0	測定範囲以下			
硝酸	≤ 0.5	測定範囲以下			
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下			
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.15			
化学的酸素要求量	≤ 10.0	2.104			

調査：大正(吾川)
資料：四万十高校自然環境部